

事例5

< 事例概要 >

- ・ 90 歳代の患者、PS<sup>※</sup> 4。死亡時画像診断（Ai） 無、解剖無。
- ・ 主診療科：血液内科、肝生検施行診療科：消化器内科。
- ・ 血小板4.4 万/ $\mu$ L、PT 時間14.3 秒、PT 活性69%、Fib 356 mg/dL。
- ・ 悪性リンパ腫疑いのため、腹部超音波ガイド下で肝生検が実施された。
- ・ 肝生検開始直後、肝表面、右肝横隔膜直下に出血と思われる変化があったが、ほどなくして血流が低下したため止血すると判断された。肝生検終了から1 時間半後、腹部膨満あり、腹部超音波で肝表面、横隔膜下に血腫があったため、ラジオ波焼灼術が施行された。4 時間半後、呼吸状態が悪化し、約 7 時間半後に死亡した。
- ・ 生検組織診断の結果は、CD5 陽性びまん性大細胞型B 細胞リンパ腫であった。

※ PS（performance status）： ECOG（Eastern Cooperative Oncology Group）が定めた全身状態の指標で、患者の日常生活の制限の程度を示す